巻　頭　言

「第26回からの歯学会の変遷」

福　井　和　徳

奥羽大学歯学会は，歯学部長を学会長，大学院研究科長と病院長を副会長とし庶務・学会・編集・会計・渉外の各委員会で構成され，日本歯科医学会の一部として活動している。学会の開催会場は，平成８年の第２講義棟落成に伴い病院棟５階臨床講義室から第２講義棟２階の第３・第４講義室へ移動された。その後薬学部設置による教室確保のため，平成17年の秋季40回から再び病院棟５階臨床講義室へ会場を移動し，現在に至る。スクリーン横のグリーン色学会縦看板は第２講義棟２階の第３講義室ステージ横に嵌め込めるよう当時作製されたものである。私は，平成10年の第26回歯学会より学会委員を拝命し，約20年に亘り学会委員会の皆様と共に春季と秋季の年２回開催を企画運営している。これより任期中の歯学会の変遷について述べてみたい。

初めて学会委員として担当した秋季26回は演題数が34題で過去最高を示し，開会が午前９時開始，閉会は午後５時と過去最長を記録した。特別講演には姉妹校である韓国慶熙大学歯学部歯科補綴学からチエ・ブビョン教授を招聘し「韓国における歯科医学教育」のタイトルでご講演され，教員で臨床講義室が満席になったのを記憶している。慶熙大学からはさらに平成14年秋季34回で口腔内科学担当のホン教授，有床義歯補綴学担当のリー教授２名を特別講演で招聘し姉妹校関係における学術交流を図っている。

当初から春季の応募演題が少なく，演題数増加が課題であった。その改善策として，分野毎に年１回発表の義務付け，歯学誌の他に同窓会報への演題募集要項掲載と共にメールによる電子媒体での応募を図り，演題登録の簡素化を図って来た。さらにスライド映写から PC による液晶プロジェクター映写に切り替えたことで学会準備の簡素化を図り，発表準備も直前まで可能とした。現在は，発表用パワーポイントを前日夕方までに発表者から学会ホスト PC へ回収し，準備に苦慮された演者の皆様が気持ちよく発表できるような環境を常に提供できるよう心掛けている。予稿集については第66回から紙媒体での作製を取りやめ，大学ホームページに歯学会のバナーを設けて参加者が各回の予稿集をダウンロードし閲覧できるよう設置した。

加えて，８年前より歯学部カリキュラムにエレクテイブ・スタデイが加えられ，各科目に配属された学部学生の研究成果発表の場として歯学会が活用されたことから，学部学生の学会参加の増加に繋がっている。また海外留学報告も随時取り入れ，若手教員や学部学生へ世界観をアピールしてきた。平成８年当時では国際学会への発表も徐々に業績として認められるようになってきたが，国際学会参加は若手の教員にはややハードルが高い風潮があった。そこで海外で学術発表したベテラン教員にはI.C.S.（International congress session）に登録いただき，外国での会場の雰囲気が伝わるように多数の写真

添付でポスター発表頂き，若手教員への刺激の場となるよう配慮いただいた。さらに症例を討論するクリニカルカンファレンスや矯正治療の症例展示などのセッションを追加し，口演以外に多種のテーブル討論を行えるよう発表内容を編成している。

特別講演やシンポジウムについては毎回アンケートを学会参加者へ依頼し，次回以降の候補者選定に活用している。秋季開催予定の特別講演では県内学長シリーズとして38回は会津大学学長，40回は日本大学工学部部長，42回は福島大学学長，44回は福島県立医科大学学長を招聘し，それぞれ大学のホットな現状を報告され，日本の将来に関するグローバルな視野で自身の取組みが紹介された。県内館長シリーズも企画し，62回は野口英世記念館副館長の竹田美文様，64回は本学図書館長の安藤　勝先生そして66回は會津藩校日新館館長 宗像　精様に講演依頼し福島学を堪能した。一方，シンポジウムでは第50回記念シンポジウムとして「歯科治療におけるインプラントを考える－素性と可能性－」をテーマに本学から山森徹雄教授，同窓で茨城県ご開業 寺門正徳先生，南会津でご開業 松本勝利先生にシンポジストをご依頼した。続いて52回では摂食・嚥下に関するテーマでシンポジウムを企画し，日本大学 植田耕一郎教授，同窓の大生病院 阪口英夫先生，前橋赤十字病院 山川　治先生を招聘している。

学会の賞としては，まず準備に多大な時間を費やされた発表者に対する学会発表時の功労を目的に，春と秋の学会中には評議員へ発表賞の選考を依頼し，各回の優秀発表者を次年度の総会時に２名表彰している。さらに歯学会で発表し，学術雑誌へ掲載されたものを年度毎に評価し，優秀な論文１編に対し学会賞を授与している。今年度は歯学会が開催延期となったため，令和元年４月から令和３年３月末までの２年間に学術雑誌へ掲載された論文を対象とし学会賞を選考する予定である。

2020年は69回と70回の開催予定であったが，新型コロナウイルス感染予防のため私が担当してから初めての開催延期となった。この状況は来年度も対面開催の困難が予測され，会場の広さ，開催時間，会場への収容人数，社会人大学院生など県外からの発表者などを鑑み，次年度以降はリモート開催を視野に準備中である。イメージとして，発表者には開催数日前までに発表データを学会担当へ送信いただき，前日までにリモート送受信試験を実施，発表時間まで待機していただく。発表スライドは学会担当がコントロールし，座長の指示のもと発表・質疑応答を行う方式を検討している。

以上，私が担当してきた歯学会の変遷を紹介した。長年に亘り学会顧問として歯学会をバックアップ頂いている影山英之理事長先生をはじめ，今まで担当された学会委員ならびに本学歯学会運営に携わってきた皆様のご厚情にこの場を借りて深く感謝を申し上げます。そして次年度以降も歯学会をより充実させていく所存ですので，引き続き皆様のご協力を何卒よろしくお願いします。

（歯学会学会担当理事）